



高校生模擬議会

将来を担う高校生が、町の最高意思決定機関である「町議会」を体験し、高校生の目線で、町への提言を行う「蘭越高校生模擬議会」が12月13日、役場議場で開会されました。

今年で17回目を迎えた今回の模擬議会には、高校生が模擬議員（議長1人、副議長1人、議員9人、書記1人）となり、金町長以下、特別職、各課局長が出席し、町議会定例会同様に、開会から一般質問までの進行そのままに行い、町長に自分たちの意見や要望を述べる機会が与えられ、高校生には貴重な体験となりました。

町側も、高校生たちの質問に対し、各担当課が町議会における一般質問と同様に検討を重ねた答弁が用意されました。

模擬議会は、議長の開会宣言後、5人の模擬議員が一般質問を行い、金町長が答弁を行いました。（質問と回答の概要を掲載しましたのでご覧ください）模擬議会を終えた生徒へ金町長から「今年は令和という新しい年号がスタートし、蘭越町は開基120年という節目の年でもあります。町では様々な記念の関連行事が行われ、自分たちが育った町の歴史を、改め

て感じる機会が多かったのではないのでしょうか。将来皆さんが大人になっても、社会や住んでいる自分たちの町に心をしっかりと置き、関心を持ち続け、名実ともに「主権者」である住民として、さまざまな関わりをもつてまちづくりに参加していただきたいと思います。」と講評を述べました。

蘭越町の街灯について



亀井 雅哉
模擬議員

町の中心部から外れると明かりが少なくなるため、街灯を増やしてLED化し、さらにデザイン性を高めた街路灯に変えることによって、観光客の増加が見込めるのではないかと考えます。

回答

街の中心部を外れると明かりが少なくなるため街灯を増やしてほしいとのことでありますが、現状を確認し、照明器具を

増設する必要があるか、既存の照明器具の角度や器具を取り換えることにより照らす範囲を広げることができないか、または、街路灯組合といった団体に街灯の設置をお願いできないかなど、検討をしていきたいと考えております。また、街路灯のLED化ですが、道路照明については、409基中169基団体で管理している街路灯が277基のうち157基がLEDの街灯になっておりまして、町又は街路灯組合では、計画的に取替を行っております。

街路灯は町だけではなく、北海道で管理している道路街灯や国が管理している国道の街灯があります。

議員の提案は統一した街路灯の整備により、景観に配慮したまちづくりに適したアイディアでありますので、内部で検討してまいりたいと考えておりますのでご理解願います。

蘭越町の税金について



福岡 陸
模擬議員

蘭越町の宿泊税を1.5%

を導入することを提案します。

宿泊税を町が観光客へのサービスで負担する費用や宿泊施設の維持費などに充て、観光客が増えることにより、町もどんどんと潤っていくと考えています。

回答

令和元年度の町税を、約4億4千万円見込んでありますが、一般会計歳入全体の6.3%にしかなっておりません。

さて、宿泊税についてですが、法定外目的税といわれる地方税のひとつとして、現在全国の多くの自治体で導入が検討されており、平成14年に東京都が導入して以来、大阪府、京都市、金沢市で導入されているほか、倶知安町でも今年の11月に導入されたのは、ご承知のとおりです。

宿泊税は、ひとつの検討材料だとは思いますが、現在は宿泊施設も少なく、財源としては、大きなものにならないことから、当面は、各種事業実施の際には、国などから助成を受けるなどして、進めていきたいと考えております。

蘭越町の観光について



浅野 瑞稀 議員
模範

夜に桜をライトアップするという案です。夜に桜をライトアップすることで昼に仕事で花見ができない方でも夜に桜を楽しむことができます。

しかし、ライトアップすることで、ごみをポイ捨てする人が出てくるということです。ごみ箱を設置し、そうすることでポイ捨てる人が少なくなり、また、ライトアップをする期間が終わった次の日にボランティアを募り、ゴミ拾いに協力してもらえば、地域の方々の交流する機会も増えると思います。

回答

民別川の左岸築堤には、平成3年から「エゾヤマザクラ」など1.2キロメートルにわたって約600本の植樹を行ってきました。

また、今年、蘭越町開基120年を記念して、らんらん公園下流側から栄橋までの間約500メートルに、民間の協力をいた

だき、新たに54本の桜の苗木を植樹し、いずれは素晴らしいビュースポットになることを期待しているところです。

桜のライトアップですが、大変すばらしい提案だと思いますが、電気の配線や設置など費用も掛かることですし、河川の管理は国土交通省が行っており、協議も必要です。提案にもありますとおり、ポイ捨てなど観光公害は、近年旅行者の増加とともに問題となってきたとおりです。観光客が美しい景観を害することのないように、私たち地域住民が率先してゴミを持ち帰る、またゴミ拾いをするなど、景観を守る行動をとっていかねければならないと、私も考えております。

昆布・目名地区におけるコンビニエンスストアの誘致について



成澤 優依 議員
模範

昆布・目名地区にコンビニエンスストアを誘致することを提案します。

回答

蘭越町には現在、大手のコ

ンビエンスストアが3店舗あり、町民の皆さんだけでなく、観光客や国道を通過するドライブなどにも大変利便な存在となっていると思います。また、営業時間が長く、夜間も街が明るくなり、常時店員もいることから、犯罪防止の効果も高いと思われる。

一般的にコンビニのビジネスモデルとして商圏人口、つまり日常的に利用する人口が3千人に1店舗が標準とされているところですが、こうした背景の中、昆布地区や目名地区の人口では、経営する人が収益を上げていくには、厳しい環境なのではないかと思っております。ご意見をいただいた点については、町民の利便性向上に資するものでもあり、そのようなことも念頭に置きながら、役場の役割の中でどのようなことができるかと考えていきたいと思えます。

町内の学校にクーラーをつけることについて



吉谷 輝 議員
模範

学校にクーラーを設置することで、生徒は熱中症など心配

せず、安心して授業をうけることが出来るようになると私たちは考えます。また、町や学校のPRにもつながると思います。

回答

児童生徒の皆さんが快適な環境の下で、学業や部活動に励んでいただきたいと心から願っております。

クーラーについては、猛暑が続いた昨年(2018年)夏に児童・生徒の熱中症が相次いだことから、国は「ブロック塀・冷却設備対応臨時特例交付金」を創設し、全国的に設置が進んでおります。

本町の小中学校においては、扇風機を各教室に配置し、網戸と合わせて暑さ対策を講じており、当面、現状の網戸と扇風機で夏をのりきっていただきたいと思えますが、検討してみたいと考えております。

蘭越高等学校の設置者は北海道であり、網戸やクーラーの設置についてお答えする立場にありませんが、北海道の関係者とお話する機会には、網戸やクーラーなどについてお話し、場合によっては要望することもできると思いますので、ご理解願います。